



大阪公立大学共同出版会

No.24

NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Municipal Universities Press (OMUP)

目 次

• OMUP理事長 新春のご挨拶	三田 朝義 1	• 出版業界人養成「本の学校」に永井伸和氏を訪ねて 常務理事 足立 泰二 5
• OMUP新春インタビュー 公立大学法人大阪市立大学理事長 西澤良記学長 ：常務理事 中井 孝章 2	• あなたが著者に、大学人出版活動のすすめ 5	
• 自著を語る（5） 『足跡一小股千佐／平林豊子の思い出と仕事』 ：小股 憲明 ：小股 小枝 4	• 大阪公立大学共同出版会創立10周年・NPO化5周年記念 ：関西圏大学出版会ブックフェアと講演会開催中 6	
		• 大阪公立大学共同出版会事務局より 6	
		• 編集後記 6	

OMUP理事長 新春のご挨拶



OMUP理事長 三田 朝義

大阪公立大学共同出版会（OMUP）会員の皆様
新しい年をお健やかに迎えられたことと拝察いたします。
昨年は未曾有ともいえる災害に遭遇された方々には心からのお見舞いを申し上げます。

昨年3月11日に東北地方を襲った三陸沖を震源とする巨大地震と大津波、それに伴って発生した人災ともいえる福島原子力発電所事故による今も続く放射能被害に遭遇しました。地震の規模は阪神大震災の1,500倍近くともいわれ、また原発災害によってこの間、放出されたセシウム137の量は広島原爆の168個分（東京新聞2011年8月25日記事より）ともいわれています。この災害によって亡くなられた多くの人々は勿論のこと、故郷を無くした人々を思うにつけ痛惜の念に耐えません。このような時、ふと北原白秋が晩年、故郷柳川を懐かしんで作った詩（歸去來）の「（前略）帰らなむ、

いざ鶴かの空や櫨のたむろ、待つらむぞ今一度。故郷やそのかの子ら、皆老いて遠きに、何ぞ寄る童こころ」や、室生犀星の（叙情小曲集）の「ふるさとは遠くに ありて思ふもの／そして悲しくうたふもの」が交錯します。

さて、新たな千年紀のスタートとともに誕生したOMUPも今年で11年目を迎えました。これもひとえに会員の皆様の厚いご支援の賜と感謝申し上げます。昨今の活字離れは「日本人の考える力の減退」とも無縁なものではないと指摘されるようになっています。一方で、最近の大学生の無読率（一ヶ月に一冊も本を読まない）が約40%にも上る（2006年10月29日読売新聞）といわれています。このような状況はわが国の学術文化の衰退につながりかねないと思う一人です。

とまれ、昨年の地方選の結果を受けて、会員のほとんど皆様が関係されている大阪市立大学と大阪府立大学両大学の統合をも含めた組織改変の是非を巡る議論をも耳にするようになりました。これはOMUPの今後の在りかたを左右しかねません。このような状況の中にあっても公立大学学術出版会としては、学術文化の発展に寄与する良書を継続して出版することを指向取ることには代わりません。

新年に当たり、皆さんに今後とも我が公立大学共同出版会にふさわしく、良書を継続して刊行できるよう努力いたしますことをお誓い申し上げ、会員の皆様のいっそうのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

OMUP新春インタビュー

公立大学法人大阪市立大学理事長

にしづわ よしき
西澤 良記 学長

インタビュアー

大阪市立大学大学院生活科学研究科 教授
OMUP常務理事

なかい たかあき
中井 孝章

い能力を持つ人材確保、海外からの人的登用による関西圏の国際発展、国際拠点化を本格的に図っていきたいと考えています。

今後の大学の姿としては、アジアの先端を行く大学としてアジアをリードする都市研究の総合大学として新たな姿を示していきたいと考えており、大阪はもちろんのこと関西にとっても魅力のあるパワフルな大学にしていきたいというのが当面の抱負です。



西澤 良記 学長

学術出版の重要性とは

中井：有り難うございます。さて私達、大阪公立大学共同出版会（OMUP）はご承知のように、今ミレニアムの幕開けと共に、当初は大阪南部に位置する公立大学、当時は5ユニット、つまり大阪市立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学、大阪府立看護大学医療技術短期大学部、及び大阪府立大学に所属している有志の先生が組織した学術出版会としまして、会員制任意団体で創立したのですが、それから5年後に特別非営利活動法人（NPO）になり、堅実な歩みを続けております。所属している大学は異なっていても、教育・研究の成果、あるいは主張を学術書あるいは啓発書として出版しております。学長先生ご自身の学術出版につきまして、ご実績も含めましてお話しいただきたいと存じます。

西澤：学術出版というのは非常に重要なことだと思います。OMUPのように皆さんのご尽力で、出版しやすい環境があるのは非常に幸せなことです。私事でありますけれども、前任者の先生が出版に前向きな姿勢で、私ども若い者に出版のチャンスを与えて頂きました。学術論文も同様で、書き残し



西澤良記学長 著書のかずかず

公立大学の使命

中井理事：明けましておめでとうございます。

西澤学長：明けましておめでとうございます。

中井（以下敬称略）：ご多忙の中、新年早々のOMUP新春インタビューに応じていただきまして、有り難うございます。新年に当たりまして、先生の「本年のご抱負」をお聞かせいただきたいと思います。

西澤：大阪市立大学は法人化をして丁度、第1期の六年目が今過ぎようとして、2012年度から第2期の中期計画に入ります。公立大学法人大阪市立大学として、次の重点項目を掲げております。①関西のシンクタンクとしての機能充実、すなわち都市科学分野の教育・研究の促進。②専門性の高い社会人の育成、すなわち21世紀型市民として、非常に専門性の高い、しかも幅広い教養を持つ人材育成であります。③国際性の強化、外国語教育の強化を図るとともに、国際競争力の高

ていくのは学問の鉄則だと思います。

中井：最近、国立大学の法人化と共に、大学名を付した「○○出版会」や「○○出版部」がた設立されております。しかし、OMUPのように固有の大学名をつけずにオープンな形で先生方の出版に寄与し、広く学生や研究者に廉価で提供しようとする出版会はまれで、私達は誇りに思っているところです。

西澤：たしかに学術出版は難しく、苦労が多いと思います。従って、本を作る環境を整えるのは非常に重要です。発行部数は少なくとも、アカデミックな活動は有り難いと思っています。先ほどの例では、透析患者のデータの本（『透析患者の検査データ・ブック』）、この分野では5年以上ベストセラーとして爆発的に売れました。読み手の必要度を考え、読み手によりわかりやすくが鉄則です。

中井：先生はいわゆるご専門の研究と一般市民への啓発をされたわけでございますね。先生の本作りのエッセンスと言えますね。

西澤：そうです。



西澤：大事なことですが、大学を跨ぐ学術出版であるOMUPには、若い学者達へのジャンピング・ボードになる場所になって欲しいなと思っています。本・雑誌を出版するのは費用がかかり、個人でできることではないですが、是非若手の学者の育成に繋がってくれれば望ましいと思います。

中井：若手研究者のジャンピング・ボードになれ！との激励と承りました。OMUPにも、ステップ・アップの刺激を与えて頂けたら幸いです。

西澤：そこは努力が必要ですね。ぼくの例ではカルシウム、内科学の中のカルシウム（『Calcium In Internal Medicine』）の本をシュプリンガー（ドイツの誇る国際的学術出版社）から作った。高い国際レベルの人達が分担執筆してくれました。若手にやらそうと思うと、ある程度知名度が高い出版経験者を導入しなければならないと思います。

中井：レベルの高い本になりますね。最近OMUPでも、大阪市立大学の数学研究所からOCAMIシリーズの4巻目が表紙を新たにシュプリンガーと共同のe-bookとして全世界に流布出来る運びになっております。

西澤：それは結構なことです。大いに宣伝して下さい。編著者の河内先生は有名ですし、出版社も有名になります。両面がありますので是非お願いしたい。

中井：とくに、高度な専門書は紙媒体でないと絶対に無理ですね。そういう意味でOMUPは大学図書館のレポジトリ（電子書架）に提携したいものです。

西澤：それは大事なポイントだと思います。

中井：本日は、新年早々のご多忙な中、年頭に当たっての抱負と貴重なご意見をお聞かせ頂き、有難うございました。私共OMUPは知的資産としての大学出版物を刊行するという社会的使命を掲げており、今後とも叱咤激励を賜ることをお

願いいたしまして、このインタビューを閉じさせて頂きます。有難うございました。

(この他、出版に関わるいろいろな点が話題になったが、紙面の都合で割愛いたしますことをご了解下さい。文責：足立 泰二)



OMUP常務理事 中井 孝章

自著を語る（5）

『足跡一小股千佐／平林豊子の思い出と仕事』

常務理事 小股 憲明
小股 小枝



本書は、平成21（2009）年11月18日、頭部原発悪性黒色腫（メラノーマ）の全身転移により、享年34歳で永眠した私どもの愛娘小股千佐（フリーライター＆エディター平林豊子）を偲び、その仕事や交流を紹介するために編んだ。

第Ⅰ分冊「追悼」は、故人が所属していた海外在住ライターズ広場およびライターズネットワークのメンバーの方々をはじめ、故人の仕事仲間の方々や友人・知人・親族の有志から寄せられた追

悼文・イラストなどで構成されている。いずれも、寄稿者と故人とのこころ温まる交流が綴られていて、故人の人となりが活写されている。

第Ⅱ分冊「仕事」には、単編著以外の作品を採録した。『Link Club Newsletter』、海外在住ライターズ広場のウェブサイト

『地球はとっても丸い』、雑誌『オレまる』（芸文社）などに掲載された署名記事である。

『Link Club Newsletter』掲載記事は、社会的問題への関心が見えており、ルポライターとしてのさらなる成長を予感させる内容となっている。また『オレまる』掲載の「三十路ライターの何でも体験ルポ！」第2回の「ホームレスに弟子入り！」では、記事掲載後もホームレスのI氏やその周辺への取材を継続しており、やがて一書にまとめるつもりがあったようだ。ルポライターとして社会的関心を広げつつあったようで、さらに10年、20年の時間があれば、それなりの仕事ができたのではないかと惜しまれる。

多様な媒体の無署名記事と、単編著である平林豊子『WE LOVE ASIAN FASHION 着こなせ！ アジアンファッショング（地球の歩き方BOOKS、ダイヤモンド・ビッグ社、2008年、第14回ライターズネットワーク大賞受賞）、平林豊子編著『WE LOVE エスニックファッショング ストリートブック』（地球の歩き方BOOKS、ダイヤモンド・ビッグ社、2009年）は、本書には採録していない。

第Ⅲ部「日記」は、コミュニティサイトMIXIに書き込まれた故人の日記（第3分冊）と、日記本文に対する仲間たちの書き込みや本人の応答（第4分冊）からなっている。日記の書き始めは2005年1月28日、絶筆は2009年7月22日である。

日記本文と応答文には、故人と仲間たちの交流のようすが活き活きと立ち現れており、生前の姿が鮮やかに蘇ってくる。小股千佐という娘が確かにこの世に存在した証として、またその人となりをありのままに伝える最適の文章として、本書



に採録した。フリーライターという職業とその周囲の人びとの在りようを垣間見ることができる資料としても、面白いかも知れない。

故人の人生のそれぞれの場面で知り合った友人、知人に、そしてまた未知の方々に、彼女の在りし日のありさまをできるだけ忠実に届けたい、との思いで編纂した。

本書の編集に献身的に協力していただいた故人の仕事仲間「地球の歩き方」編集部高島正人、フリーライター長見枝、デザイナー阿部大輔の諸氏と、本書の出版を快く承諾して頂いたOMUP常務理事会の皆さんに深く感謝している。

出版業界人養成「本の学校」に永井伸和氏を訪ねて

常務理事 足立 泰二

2011年の初秋を迎えたと言うのに、連日30度を超す猛暑の日、山陰の商都米子市の郊外、皆生温泉にほど近く、けやき並木の美しい通りに面した「本の学校」に、創設の原動力役を務め、今なお各種の要職をこなす、株式会社今井グループ代表取締役会長永井伸和氏を訪ねた。同氏は、「本の学校」の範となったドイツ書籍学校及び関連地の視察に全国各地から40人もの若い書店人に同行されて帰国されたばかりとのことだった。ご多忙にもかかわらず、本の学校の沿革、大山緑陰シンポジウム、本の国体、「地方出版文化功労賞」の制定に関わる数々の成果と発展を現地で具体的にお聞きすることができた。ぜひ、OMUP会員の皆さんに報告しておきたいのである。

米子市では本屋の老舗「今井書店」は、その創業は明治の学制発布された1872年、蘭方医初代今井兼文氏のこと。その創立120周年事業として1992年に「本の学校」構想を発表、翌93年山陰と東京で運営委員会を立上げたのである。その着想はお聞きするところによれば、ドイツのギルド制度の中での実技中心の資格制度の確立した職業学校に学ぶところ大であった由。書籍業学校ながら、哲学から始まり、マーケティング、経営管理に至る総合教育には質実剛健な国民性に触れる学校視察をされての設立決意だった、とのことであった。日本でドイツのような学校を、それも東京ではなく地方で設立を思い立たれるには幾多の障壁があったようだが、永井さんを先頭にして「地域の人々の生涯読書の推進」「出版や図書館のあるべき姿を問うシンポジウムやセミナー」をもとに、堅実で活発な活動を続けて来られ、「業界人・書店人の研修講座」に裏打ちされる努力が実りとなつたのであ

る。もっともその源流は、創業100年記念として、地域文化への貢献を旗じるしに、市民・県民運動の展望をすでに視野に入れておられたようである。

「本の学校」設立は1995年、上述の三原色と称される機能を「研修室」、「本の図書室・博物室」、「多目的ホール」を備えた施設を利用した春の研修講座、夏は全国規模の「大山緑陰シンポジウム」を開催し、出版に関わる著者から読者まで、出版界、図書館界、教育界、マスコミ界の集いへと成長したのである。数々の成果が本となり、記録集となって展示されている博物室を見学しながら、永井さんは次のようなことを語っておられた。

今、街の本屋は激減し、日本の出版流通制度が疲弊し、一方では電子化の波に対応を迫られている。また、国際的な高度情報化の中で、地域の大学や図書館や街の書店の明日を忘れてはならない。北海道から沖縄まで、個性豊かな「知の地域づくり」、人づくりに、地域の大学、図書館、街の書店、出版社、文化施設等々の協力が不可欠だ、と。

春3月に襲った東日本大震災及び福島原発の大震災から半年、自然の力の前に人は如何に微小な生き物であるかを実感し、さらには「人知」としての科学・技術文化形成の一層の努力が求められていることを痛感しながら「本の学校」を後にしたのだった。

なお、永井氏は、今般のブックフェア講演会で講演いただくことになっている。

あなたが著者に、 大学人出版活動のすすめ

- あの文豪ゲーテも処女出版は自費だった
時代は違っても生むことの困難さは同じ
- 学術著書の評価は上昇中
数ページで2,3年の寿命の原著論文より
高い評価は至極当然
- 学生が本を読むようになるコツ
指導教官の著書は学生にとつては誇り、廉
価なら買って読むこと必定
- 教科書、推薦図書は売れてます
若い人は先生の自己主張を期待しています
- 読まない、買わない、著さない
ハウツーものは本とは言えぬ
- やはり復活の兆し、文字文化
今若年層に復活の兆し、それは読書
- OMUPはいつでもお手伝い

さあ、OMUPにご相談を

OMUP創立10周年・NPO法人化5周年記念の関西圏大学出版会ブックフェア&講演会ジュンク堂書店難波店で開催中



平成24年1月16日～2月29日、関西部大学出版部、関西学院大学出版会、大阪大学出版会、京都大学学術出版会、三重大学出版会、大阪経済法科大学出版部が賛同してジュンク堂書店難波店（マルイト難波ビル3F）でブックフェアを開催中です。開催期間中、2回の講演会（JUNKU難波店トーク・セッションとの共催）を同書店特設会場において計画しています。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

編集後記

今回のニュースレターは何と言っても大阪市立大学理事長西澤良記学長のインタビュー。並々ならぬ決意、抱負を熱っぽく、かつ冷静な立場から語って頂いている。インタビュアー中井孝章先生のご尽力に対してもお礼を申し上げたい。

昨年の秋口から取り組んだOMUP創立10周年・NPO化5周年記念事業「近畿圏大学出版会ブックフェア&講演会」が新年早々から2月一杯までジュンク堂書店難波店で開催中。5年前のブックフェア（堂島アバンザのジュンク堂大阪本店）

講演会：

第1回 2月5日(日) 午後2時～4時

1. 「本の周辺」

永井 伸和（「本の学校」運営委員、今井書店グループ会長）

2. 「大学出版の魅力」

濱 森太郎（三重大学出版会編集長）

第2回 2月19日(日) 午後2時～4時

1. 「学術出版物 作る側の苦労と売る側のいいぶん」

金井 一弘（OMUP編集長）

×福嶋 聰（ジュンク堂書店難波店店長）

2. 「環山樓市民塾をめぐって大学と地域連携と出版」

岩村 等（大阪経済法科大学法学部教授）

大阪公立大学共同出版会事務局より

大阪公立大学共同出版会は、大阪市立大学および大阪府立大学における教職員と、本出版会の趣旨に賛同する者の自主的な参加を得て、研究・教育成果の発表を助成し、また民間出版社において採算上刊行を引き受けないような優良学術図書の刊行頒布の事業を行い、学術の振興および文化の発展に寄与することを目的とし、

(1) 会員の教科書および学術研究報告の刊行頒布

(2) 会員の学術図書の刊行頒布

(3) 会員のデータベース、ソフト等電子出版物の刊行頒布

(4) その他前条の目的を達成するために必要な事業

などを行なっているNPO法人です。参加を希望される方は下記事務局へお問い合わせください。

599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学中もずキャンパス内

NPO法人大阪公立大学共同出版会（OMUP）事務局

電話：072-251-6533 ファクシミリ：072-254-9539

e-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp

URL：http://www.omup.jp/

入会金：一口一円（終身会費）

振込先：三菱東京UFJ銀行 中もず支店 普通 3976510

に比べると、展示スペースは少ないが、協力大学出版会の好意もあって、店内の静かな中にも実質的には確かな自己主張のあるブックフェア開催となったことを喜びたい。それぞれ参加大学出版会の個性が見られ、お出かけ頂くことを勧める。

10年を一つの節目として、OMUPも順調のように言えるが、さらなる飛躍を夢見て、地道な努力こそ必要なステップにさしかかったと言えよう。

(T.A.)